



おさだ ゆみ

1992年、東京都出身。中央大学理工学部都市環境学科を卒業後、2015年に大豊建設に入社。入社から現在まで、土木本部土木技術部技術設計課に所属。夏はBBQ、冬はスノーボードに行くアクティブ派

大豊建設で働く

土木のヒロイン

入社5年目の若手社員にインタビュー！  
建設業界で働く女性の過去と現在、そして未来とは？

photo: Shigeo Kosaka text: Kohei Nishihara (EATer)

土木系女子（通称ドボジョ）  
長田裕美 26歳のストーリー

もともと興味があったのは、環境という分野。まちづくりや自然に関わること、そういうことを学びたくて、中央大学の都市環境学科に入学しました。ただ、その学科は数年前までは土木工学科だったんです。もちろん都市計画などの授業もありましたが、コンクリートや地盤についてなど、ばかり土木漬けの学生時代をおくりました。だから就職活動も自ずと土木系、学科にいた女性もほとんどが土木系に就職しました。大豊建設に就職したのは、会社説明会の際に感じた雰囲気よさですね。会う人会う人、みんな気持ちがよくて、掃除のおばちゃんまでも優しかったです(笑)。

それと、大豊建設は、ニューマチックケーソン工法や泥土加圧シールド工法など、技術的に優れたものを持っていました。どうせ働くのなら、うちの会社はここがすごいんだ、と自慢できる会社がいいじゃないですか。雰囲気よさと、しっかりとした得意分野がある。それが就職を決めた理由ですね。もちろん、入社してからもその印象は変わっていません。上司にも言いたいことを言いやすい環境です。

今年で入社5年目になります。入社以来ずっと土木技術部技術設計課という部署にいます。主な仕事は、設計です。とは言っても、私は一から何かを設計するのはなく、現場から届く計算書の確認などをする現場支援の仕事をしています。だから、普段はパソコンの画面上でしか構造物を見ることがないんです(笑)。でも、実際

に自分が関わった構造物を見ると達成感がありますね。それがこの仕事の醍醐味だなと思っています。

次のステップとして、そろそろ現場に出たいと考えています。それで、現場のわかる人間として、また設計に戻ってきたい。もちろん結婚や出産も考えていますが、先輩には出産後に時短勤務で現場仕事をしている人もいます。なので、その辺はあまり心配していません。働き方について、相談しやすい環境なんです。

大豊建設は、創立時からチャレンジすることを大切にしてきた会社です。今でも、新しいことにどんどん挑戦していますし、若手にもチャンスを与えてくれます。女性も働きやすい。ただ、まだまだ女性社員が少ないので(笑)。もっと増えてくれるといいなと思います。土木系女子にはおすすめです！

大豊建設

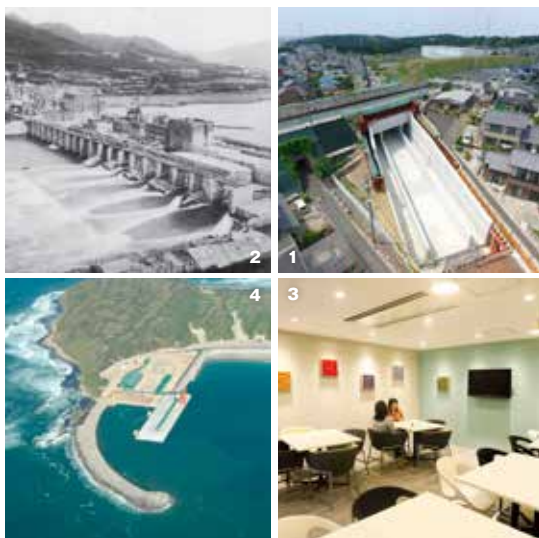


信頼に応える確かな技術

旧満州に建設された当時世界第二の巨大ダム「豊満ダム」。大豊建設は、そのダム建設に関わった技術者たちが起こした。創業以来一貫して技術力を磨き続け、革新的な技術で日本の屋台骨を築いてきた。現在では、土木と建築の2本柱で国内外のさまざまな現場で活躍

大豊建設株式会社

設立 1949年3月31日 本社所在地 中央区新川1-24-4  
従業員数 996名 URL <https://www.daiho.co.jp>



1「市道橋狭間助線第2号道路改良工事」は長田さんが関わった仕事のひとつ  
2 旧満州国にあった「豊満ダム」。このダムの土木技術者が大豊建設の礎となった  
3 今年70周年を迎える大豊建設は本社をフルリノベーション。こちらは、長田さんもよくランチをするというリフレッシュルーム  
4 大豊建設が手がけたマダガスカル共和国の「エホアラ港」は、同国の新紙幣の図柄にもなった